

# 激動の2戦振り返る

モトGPクラスを戦うLCRホンダの中上貴晶(28)が、見事な立ち直りを見せた。初のポールポジション(PP)を獲得した第12戦テルエルGP(10月25日決勝、スペイン・モーターランドアラゴン)はオープニングラップの転倒で今季初リタイア。その悔しさを乗り越え、第13戦ヨーロッパGP(8日決勝、同リカルドトルモサーキット)は2戦連続フロントロー獲得の3番手から4位に入った。貴重な経験を積んだ、激動の2戦を振り返ってもらった。

(聞き手&撮影=遠藤智)

# 中上

LCRホンダ



今季の活躍で人気も上がっている。大量のポスターカードにサインを入れる作業にも笑顔

## まさかの転倒まるで時間が止まったよう

「あんな経験初めて」  
「テルエルGPの転倒は衝撃的だった。」  
中上貴晶「あんな経験は初めて。転んでから路面を滑っていく時も、まるで時間が止まったようだった。現実とは思えない、本当に変な感覚。」  
「ああ、夢だったらしいのに」と思っただけで涙も出なかった。ただただ信じられない気持ちで、それが丸一日続いた。  
「転んだ理由は？」  
「1コーナーでホールショットを取り、その後(優勝した)モルビデツリと(2位の)リンスを抑えるために、ややイン側のブロックラインを通った。その結果、5コーナーに進入する角度がタイトになり、ブレーキングもハードにかけすぎてしまった。ナイスになって力が出せなかったというより、『プレッシャーに負けないぞ』と思い込んで逆に力んでしまったんだと思う」  
「勝てる自信があった。」  
「レースウィークを通して自分が圧倒的に速くてPPを取れた。もともと自分が得意な中高速コーナーで速かったし、

## 確信転ばなければ勝っていたレース

「1コーナーで速かったし、ブレーキングがすごく良かった。転んだ後にピットに戻ってモニターで見たレースも、レース後のデータも予想通りの内容。たればただ、転ばなければ勝っていたレースだと確信した」  
「その反省からヨーロッパGPは慎重に？」  
「いや、それはない。テルエルGPのことはまったく思い出さなかったし、セーフモードで走っていたわけでもない。予選まで天候が不安定で決勝だけが完全ドライになり、タイヤの持ちなど、レース展開を考えすぎてしまった。10周目くらいで(4番手の)オリベiraが前の3人から遅れ始めた時に2周、そのまま一緒に走ってしまった。すぐに抜いて、前の3人を追えばよかった。あれが致命的だった」  
終盤は自己ベストも



ヨーロッパGPで自己ベストタイ4位の中上貴晶(右)。後ろはオリベira

## 反省点もっと早く仕掛けるべきだった

出して表彰台に迫った。「ラスト5周は全力でいったし、ラスト2周で自己ベストが出た。それまで抑えていたというも、本当にコンマ1秒のことで、それが最後に影響した。もっと早めに仕掛けていかなきゃいけなかった。終盤のタイムをもっと早いタイミングで出せていれば展開も変わっていたはずだし、一番の反省点」  
「今年の成長は目覚ましい。」  
「自信という点では何も変わっていない。毎週レースがあるのが、自分には合っている。リズムがあって楽しい。同じサーキットで2週目に成績が良いのは、それが一番の理由。去年まではトップ10がやっとという感じだったけど、今の自分の位置に慣れた」  
「この2戦で周囲の評価もさらに上がった。」  
「HRC(ホンダレーシング)の横山健男さん(テクニカルディレクター)から厳しい言葉をもらった。『タカ、ちゃんと力出せたのか』とだけ。自分が感じていることを、そのまま言われた。自分はワークスチームのライダーではないけど、ワークスのプレッシャー

## 自信10人目のウィナーを目指す!!

「同じサーキットでの連戦となる第14戦バレンシアGP(15日決勝)で初表彰台、初優勝を。」  
「もう、それしかない。テルエルGPのPPは本当にうれしかったし、勝てる自信もあった。正直、調子が良すぎて狙いすぎたし、逆にヨーロッパGPは冷静に考えすぎてしまった。この2戦の経験はこれから生きてくる。もう優勝できる自信もあるし、準備はできている。ヨーロッパGPで優勝したミルが今季9人目だと聞いたから、10人目のウィナーを目指す」  
★マルクは今季絶望  
モトGPに参戦するレブソルホンダは10日、第2戦スペインGPで右腕を骨折してリハビリ中のマルク・マルケスが、今季中は復帰しないと発表された。マルクはツイッターで「医者」とチームと話し合い、復帰は来季が最良と判断した」とつぶやいた。ステファン・ブラドルが代役を続ける。

# 喜ぶ4位なびじや!!